

発原通東

県、運転再開前に説明会

来月以降 県民不安解消図る

県は28日、定期点検中の東北電力東通原子力発電所(東通村)の運転再開をにらみ、県民向けの説明会を開催する方針を明らかにした。東京電力福島第一原子力発電所の事故で本県でも安全性への不安が広がったため、丁寧な説明が必要と判断した。安全性を議論している「県原子力安全対策検証委員会」の結論を踏まえて実施するもので、開催は来月以降になる。

同日の県議会総務企画委員会、田名部定男(民主党)、伊吹信一(公明・健政会)両県議の質問に対し、佐々木郁夫・企画政策部長

が明らかにした。

原子力施設の安全性をめぐっては、専門家で作る検証委が議論を重ねており、知事はここでのお墨付きを得て、運転再開を認める方針を示していた。県民説明

会は、こうした専門家の議論や国・事業者による安全対策を県民に説明し、運転

再開に理解を求めるものだ。

県は昨年8月に、英仏から返還される低レベル放射性廃棄物の受け入れを決めた際にも県内6か所で県民向けの説明会を開催しており、「県民の不安はさらに大きくなっており、今回は一層丁寧な手順が必要」(県幹部)と判断した。

ただ、具体的な開催時期は、検証委での議論が続いているため、決まっていない。国は夏場に深刻な電力

不足が想定されることから、全国の原発の早期運転再開を促す考えだが、県は「検証委では期限を設けず、厳格に議論してもらう(県原子力施設安全検証室)としている。ただ、県庁内からも、「暑さが本格化する前の7月上旬に始めるべきだ」との声も漏れており、7月中の開催が焦点となりそうだ。